水島メモリーズ

萩原工業編

イ草からブルーシートへ

色とりどりのブルーシート（写真：山口百香）

ブルーシート日本一

現代の暮らしに欠かせないものの一つとして「ブルーシート」があります。お花見のときには敷物として使ったり、雨漏りが起きれば屋根に張ったりします。ブルーシートは軽いうえに防水機能をもっており、覆ったり包んだりすることでさまざまな物を守ってくれます。また災害時に、破損した家屋などの応急処置にも大活躍をします。そのブルーシート国内生産日本一の会社が、水島臨海工業地帯の中にあります。萩原工業株式会社です。

水島臨海工業地帯に立地する上場企業の多くは、東京に本社を構えていますが、萩原工業の本社は水島にあります。水島に本社を置く企業の中では、萩原工業が唯一の上場企業です。

萩原工業はブルーシートだけでなく、土嚢袋、福島原発事故の汚染土壌を入れるフレコンバッグ、

目次

ブルーシート日本一 p3

倉敷はイ草の一大生産地だった p6

社会の変化とともに p10

地域カフェとみずしま財団について p14

萩原工業の製品。人工芝や倉敷名産の畳縁の材料にも。
（写真：山口百香）

フラットヤーンをつくっているところ（写真：山口百香）

細長い繊維となったフラットヤーン（写真：山口百香）

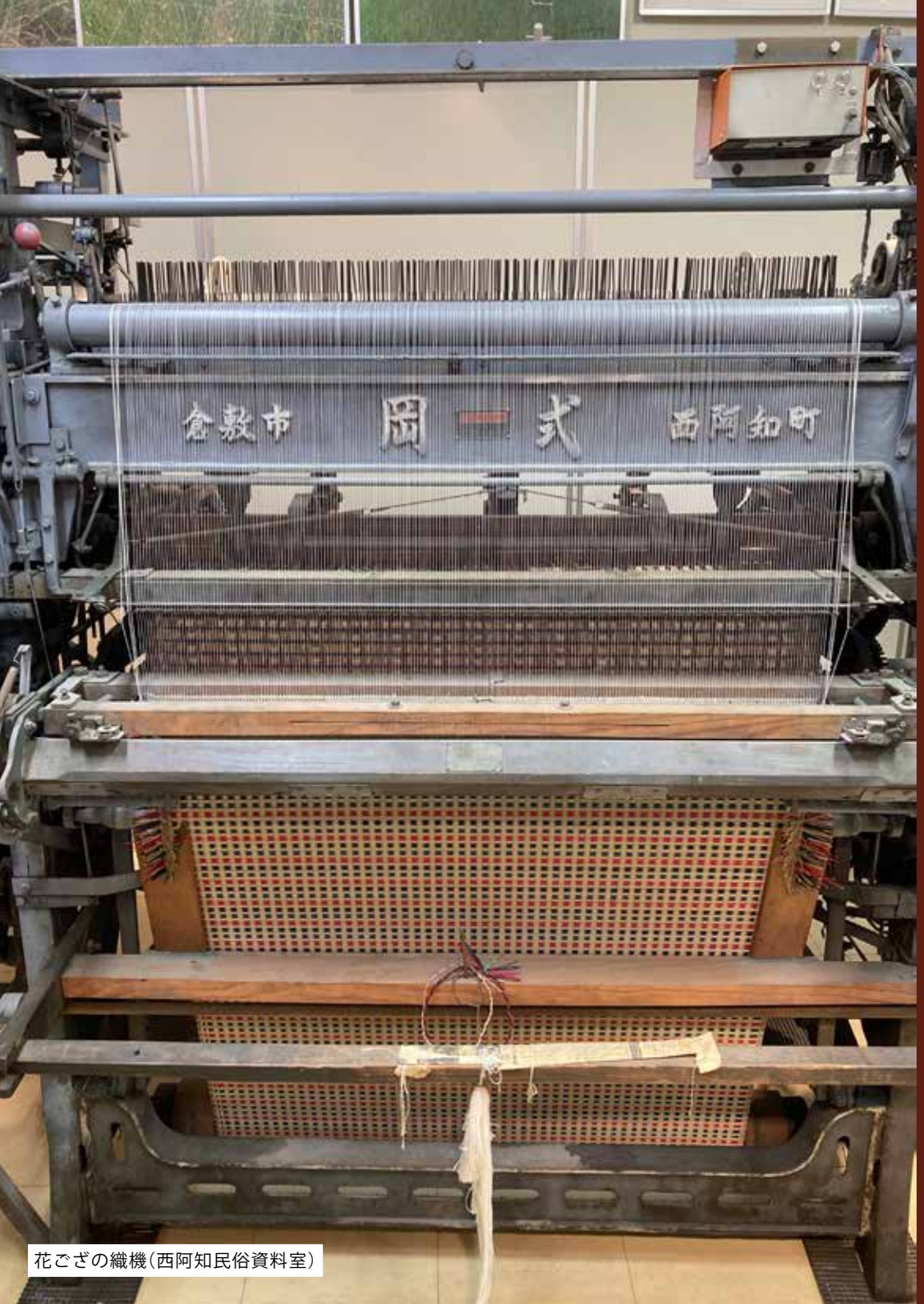
ブルーシートの巨大な巻物（写真：山口百香）

建築現場の防音シート、除草シートなど、家庭用品から工業用品まで、さまざまな製品を生産しています。

ブルーシートはよく見ると、タテ糸とヨコ糸があり、織られていることがわかります。織物なのです。

なんと、ブルーシートは倉敷の特産品であるゴザに由来があります。イ草を織ってゴザをつくっていたものが、石油由来の素材（ポリエチレン・ポリプロピレン）に変化したのです。

コーティング前のブルーシート（写真：山口百香）



花ござの織機（西阿知民俗資料室）

倉敷はイ草の一大生産地だった

倉敷や早島を含む岡山県南部は、かつてイ草の一大生産地でした。昭和30年代中頃には、全国のイ草生産の80％を岡山県が占め、さらにそのうち90％が倉敷周辺で生産されていました（倉敷市史研究会編『新修倉敷市史　第7巻　現代』倉敷市、2005年、164頁）。

イ草は苗を夏につくり、冬に植えつけ、翌夏に刈りとります。植えつけのときには、水田に氷が張っていることもあり、氷を割りながらの作業がとてもつらかったといいます。また、背丈が長く育ったイ草は、夏の暑い最中にさわるとひやっと気持ちがよかったそうです。イ草から畳表やゴザがつくられますが、その加工も倉敷でおこなわれていました。

倉敷の日本遺産のストーリー「一輪の綿花から始まる倉敷物語」の中に「イ草」が登場します。干拓によってつくられた倉敷では、塩分に強い植物としてイ草や綿花が栽培され、換金作物となって地域に富をもたらしたとされています。明治時代には、染色したイ草を使って鮮やかな模様が浮き出るように織り上げた、カラフルな花ござがつくられるようになり、海外への輸出品となりました。

錦莞莚（きんかんえん）と呼ばれる花ござの開発に心血を注いだ、磯崎眠亀の住宅兼作業所が倉敷市茶屋町に残されています。現在では、倉敷市立磯崎眠亀記念館として整備されており、当時の作品や関係資料を見ることができます。

倉敷市西阿知も花ござ生産が盛んな地域でした。その西阿知で創業したのが株式会社萩原です。1892（明治25）

年に萩原賦一がアメリカ輸出向けの花ござ製造販売を始めます。花ござは１９０２（明治35）年には日本からのアメリカへの輸出品目の３位になりました。しかし、１９１４（大正３）年に始まった第一次世界大戦で輸出が難しくなり、萩原は国内向け販売に切り替えます。北海道・沖縄だけでなく、植民地であった台湾・朝鮮、そして満州にも販路を広げていきました。

第二次世界大戦が終わると、萩原は経営者の代替わりもあって、新たなスタートを切ります。花ござ織機の自動化により量産を推進し、１９６１（昭和36）年には、花ござ用タテ糸をポリエチレンでつくるため、水島工場を建設しました。それが翌年に分社独立し、萩原工業になったのです。

戦後も倉敷がイ草の一大生産地だったのは前述の通りです。水島でも、干拓による新田がたくさんあり、イ草は水稲の裏作として栽培されていました。しかし現在では、そうした光景は見られなくなっています。

その理由の一つは、水島臨海工業地帯が開発されて大気汚染が発生したために、イ草が先枯れを起こしてしまい、商品価値を失ってしまったからです。また、三木行治知事が「農業県から工業県へ」という方針を掲げて地域開発を推進し、まさにその意図通りに、イ草の栽培や加工に向けられていた労働力は、水島の工業地帯に流れていったのです。産業構造が変わったことで、倉敷でのイ草生産・加工は激減しました（前掲『新修倉敷市史　第７巻　現代』374～376頁。丸屋博『公害にいどむ――水島コンビナートとある医師のたたかい』新日本新書、１９７０年、54～56頁）。

二代目の磯崎高三郎の作品
倉敷市重要文化財・日本遺産
（倉敷市立磯崎眠亀記念館）

磯崎眠亀の花ござ
倉敷市重要文化財・日本遺産
（倉敷市立磯崎眠亀記念館）

倉敷市立磯崎眠亀記念館
〒710-1101
岡山県倉敷市茶屋町195

社会の変化とともに

萩原工業のもとになった水島工場ができたのは前述のように1961（昭和36）年ですが、現在ENEOSになっている日本鉱業と三菱石油の水島製油所が操業を開始したのも同じ年です。萩原工業が、かなり早い段階で石油製品に目をつけていたことがわかります。水島工場ができた頃は「空襲の被害のあとがまだ残っており、工場用地には爆弾によって空いた穴があった」といいます。

フラットヤーンが萩原工業の要です。フラットヤーンとは1964（昭和39）年に萩原工業が開発した技術で、ポリエチレン・ポリプロピレンのフィルムを短冊状に切断したものを、さらに引っ張って伸ばすことでできる強くて平らな糸です。この糸を織ることでブルーシートがつくられます。つまり、イ草の進化形なのです。

前会長で相談役の萩原邦章さんは「企業が誕生することにはその必然性があり、企業が存続するにもその必要条件がある」といいます。花ござからブルーシートへの転換は、水島が工業地域に変化したことをあらわしており、萩原工業が独自の本質的機能やサービスを保持しながらも、時代の変化に柔軟に対応していることをよく示しています。

近年、プラスチックごみが社会問題として取り上げられますが、萩原工業でもその対応をしており、より丈夫なブルーシートをつくって劣化しにくくする工夫や、ホームセンターでの回収、アップサイ

上写真：上空から萩原工業を撮影　1964（昭和39）年12月16日
下写真：海岸通から萩原工業を撮影　1972（昭和47）年2月18日
上・下とも安藤弘志氏撮影（倉敷市歴史資料整備室蔵）

収穫されたイ草と亀島山　1962（昭和37）年5月22日　安藤弘志氏撮影（倉敷市歴史資料整備室蔵）

萩原工業株式会社前会長・相談役の萩原邦章さん（写真：山口百香）

クルとしてエコバックの作成など、さまざまな取り組みをしています。廃ブルーシートから新たなブルーシートを製造する同社の水平リサイクルプロジェクトや、再生原料を60％以上使用したエコマーク認定品のターピー エコフレンドシートの取り組みが評価され、萩原工業は公益財団法人日本環境協会の「エコマークアワード２０２２」優秀賞を受けました。

また、官産民学が連携して環境学習のまち・水島の創造をめざす「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」では、萩原邦章さんが会長時代から発起人代表を務めてきました。経営理念で掲げられている「世のため人のために役立つ会社」の実践です。

化石燃料に依存しない社会がめざされている今日、萩原工業はどのような変化を遂げるのでしょうか。企業が社会のニーズに即応し変化していくことを通じて、地域の経済・社会も大きく変わっていきます。私たちも「みずしま地域カフェ」を通じて、地元企業との対話を継続していきたいと思います。

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム

フラットヤーン（写真：山口百香）

地域カフェについて

戦争、地域開発と公害など「困難な過去」にも目を向けながら、水島の歴史を掘り起こすとともに、地域の新しい魅力を発信するための冊子です。みずしま財団が2021年度から取り組んでいる「みずしま地域カフェ」で得られた情報をもとに作成されています。地域カフェは地域の歴史について学び、将来のまちづくりの方向性などを語り合う場です。ぜひご参加ください。

みずしま財団について

みずしま財団は、正式名称を「公益財団法人水島地域環境再生財団」といい、2000年3月に、水島地域の環境再生・まちづくりの拠点として設立されました。

住民を主体に、行政・企業など水島地域の様々な関係者と専門家が協働する拠点として、よりよい生活環境を創造する活動を展開していくために、調査活動をはじめ、学びの場づくり、人とのつながりづくり、そして公害の経験の継承と公害患者支援などを行っています（2022年10月、ミニ資料館「みずしま資料交流館」を開設）。

DATA

萩原工業株式会社（本社）
〒712-8502 岡山県倉敷市水島中通1-4

西阿知民俗資料室にある写真

表紙写真　：フラットヤーンの巻き取り（写真：山口百香）
裏表紙写真：フラットヤーンをつくるための原料（写真：山口百香）
文　　：林美帆（みずしま財団）、除本理史（大阪公立大学）
協力　　：萩原工業株式会社、倉敷市立磯崎眠亀記念館、西阿知民俗資料室
デザイン　：山口百香（Myu dear,）
発行日　　：2023年3月
発行　　：公益財団法人水島地域環境再生財団・みずしま資料交流館（あさがおギャラリー）
〒712-8034 岡山県倉敷市水島西栄町13-23　TEL：086-440-0121

地球環境基金の助成を受けて製作しました

みずしま財団
公益財団法人 水島地域環境再生財団

あさがおギャラリー
みずしま資料交流館

地球環境基金

みずしま財団
Web サイト

水島
メモリーズ